

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	社会学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.4 成果
小項目	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。
要素	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用 学生の自己評価、卒業後の評価 (就職先の評価、卒業生評価)
小項目	6.4.2 学位授与 (卒業・修了判定) は適切に行われているか。
要素	学位授与基準、学位授与手続きの適切性 学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策 (院) (専門)

II. 自己点検・評価 (2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 学生による授業評価指標の試行	→学生による授業評価項目の適切性に関する院生会との懇談会実施の有無	A	B			
2. 外部審査委員への委嘱件数を過半数以上とする	→外部審査委員への委嘱件数	A	B			
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目6.4.1	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。 (説明) 教育成果測定のために、研究成果発表会を実施するとともに、授業評価において大学院生による自己評価項目を設定し、目標・指標の再検討を進めている。
☆ 小項目6.4.2	6.4.2 学位授与 (卒業・修了判定) は適切に行われているか。 (説明) 大学院研究科委員会において主査および2名の副査を審議・承認し、掲示にて公開している。また、口頭試問については公開とし、透明性を確保している。特に後期課程については積極的に外部審査委員に委嘱している。
その他	目標の「1. 学生による授業評価指標の試行」、「2. 外部審査委員への委嘱件数を過半数以上とする」進捗評価については、昨年度は1年間の進捗評価を行ったので「A」と評価したが、本年度は、到達年度である2013年度に対してどれだけ進んだかという進捗評価を行ったので「B」と評価した。

《評価指標データ》

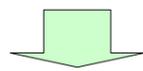
各学部における学生の進路状況
 一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数
 日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
 在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率
 修士学位・博士学位・専門職学位の授与数
 KGPSの修士学位・専門職学位の授与数
 3年卒業の適用者数
 ジョイント・ディグリーの授与者数
 標準修業年限未満の修了者の数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(1)】効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.4.1	
★小項目6.4.2	
その他	



【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

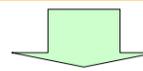
注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.4.1	
★小項目6.4.2	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.4.1	
★小項目6.4.2	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.4.1	
★小項目6.4.2	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

- 設定した目標については、順調に進捗していると判断できます。
- 今後は小項目6.4.1の第2要素「卒業後の評価」についても、目配りしていくことが望めます。
- たまたまそうなったのかもしれませんが、今回の大項目6の記載については、「効果が上がっている事項」「改善すべき事項」のいずれにも記入がありません。よりきめ細かな自己点検・評価が望めます。

【学内委員】

- 教育成果については、設定した目標に向けての進展が期待されます。
- 教育成果測定のために、研究成果発表会を行ったり院生による自己評価シートを導入し、目標や指標の再検討を進めている点は大いに評価できます。また学位授与についても、透明性を確保したり外部審査委員への積極的な委嘱が進められている点が評価できます。
- 小項目6.4.2については、大学基準協会の基盤評価などを今一度ご確認ください。

○昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。

- ・学生による授業評価は定期的に行われており、その結果が改善・改革につながっている点は評価できます。また、学位審査における外部審査委員への委託に関していえば、後期課程において積極的に行われている点は評価できます。口頭試問も原則公開とされている点は高評価に値します。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

- 小項目6.4.1
基盤評価：なし
達成度評価：「学生の学習成果を測定するための評価指標の開発及び教育内容・方法等の改善への活用に努めている」
- 小項目6.4.2
基盤評価：「卒業・修了の要件を明確にし、あらかじめ学生が知ることができる状態にしていること」「学位授与にあたり論文の審査を行う場合にあっては、学位に求める水準を満たす論文であるか否かを審査する基準（学位論文審査基準）を明らかにし、これをあらかじめ学生が知ることができる状態にしていること」
達成度評価：「学位授与方針に従って学位授与を行っている」

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ なし